

SS-Lecture 第2回講座

分子で紐解く男女の違い

～性ホルモンの作用とその仕組み～

平成30年9月15日(土) 本校会議室

群馬大学生体調節研究所から、佐藤隆史先生をお招きし、SS-Lecture 第2回講座を開催しました。

内容は、「男女の性差がどのようにして決定されるのか」ということをテーマとし、染色体の違いによって生じる性ホルモンが性差に影響しているということや、ホルモンのはたらき方のしくみを踏まえものでした。具体的には、男性ホルモンであるアンドロゲン、女性ホルモンであるエストロゲンが受容体で受容されることで、男女の生理機能が発現するため、それぞれのホルモンの分泌量の異常が起こると、メタボリック症候群や骨粗鬆症などの疾病が引き起こされることがわかりました。また、前立腺がんや乳がんも、ホルモンが原因であることがあるとのことです。

ホルモンの分野は、1年生では生物基礎でこれから学習する内容ですが、2年生ではすでに学習済みなので、特に2年生の参加者にとっては、学習した内容と講義内容を結びつけることができ、より興味深く聴くことができたようです。

また、講義が終わった後に、生徒からたくさんの質問が出され、生徒の関心の高さがうかがわれました。

【参加者感想(抜粋)】

- ・性ホルモンについて学ぶ機会は少ないので、とても興味深かったです。また、生物の授業で学んだことがたくさん出てきて、学んだ内容が実際の生活にも役立つということを実感しました。
- ・これまでの研究者たちが、一つの課題を深く掘り下げ、分かった事実を積み重ねることで、新発見につながったというお話を聞いて、地道な研究の大切さを知りました。将来研究者の道に進もうと思っているので、とても参考になりました。



講義の様子



質疑応答の様子